



我輩と大陣 原付書紙

指環

一 大正五年

所小是等並に此の無法を對するに...
吾輩の目し...
リノ種子...
んが...
ワ...

新樂文庫 原稿用紙

指環

紅葉少人律

もくへんりいさんあゝのわ國でと嫁さんと言ふ
 時小指環を箱の中に入れておきさうでスネ
 ました嫁さんとさうして此の御左の手の人さう指へ
 虚の指環をさしつけしと嫁さんさうに其娘と約束し
 ました其時指環を中指へやりさす西海渡うらてと
 中ふと薬指へやりさしつけしと何處へやりさ
 すさうくし質屋へやりさす

一大新書

五

律

時小先生近江私小痴法を新書とさうと思つて不
 毎晩夜の自由落す小考をさしつけしと此の御左の
 手さうくし質屋へやりさす
 ソノ指子よりモット透通つて又つてさうにさうに
 ス先生小首を飲けハリーテネさうにさうにさうに
 んがボンヤリゆつた奴は細君へさう言律の外にさ
 づらん品はさうにさうに



紅葉抄采多文庫原稿



本間文庫
文庫 14
A 16



紅葉原稿断片



わが著明治文学史上巻所収

木村久雄

